

— 武蔵野から新しい都市像を開こう —

武蔵野市は、昭和 22 年（1947 年）の市制施行以来 60 余年を経て、市政運営は大きな曲がり角を迎えている。

少子高齢化が進み人口減少に向かいつつあること、経済はグローバル化が進むとともに成長期から定常期に入っていること、資源・エネルギーなどの環境制約が厳しくなったこと、単身世帯の増加などにより近隣関係の希薄化が進んでいることなど、長期的な視点で見ると、市政を取り巻く状況は大きく変化している。一方、市民の志向は、20 世紀後半の高度な消費や利便性から、身近なものや人を大切にするライフスタイルへと向かっている。それらに対応する市の政策も、かつての新規・拡大の時代を経て、新しいニーズへの対応を踏まえたリデザイン・リニューアルの段階に入った。

こうした変化を背景に、文化、環境、地域社会、財政などのあらゆる面で、次世代に誇りを持って継承できる「持続可能な都市」を創造していかなければならない。

本計画期間は、これまで 40 年間にわたって進めてきた計画行政の大きな転換点にあり、21 世紀前半の武蔵野市政を方向づける重要な位置にある。

本市で培われてきた都市文化や市民活動・事業活動の持ち味を活かし、武蔵野から新しい都市像を創造していくため、次のまちづくりの視点と目標を掲げる。

まちづくりの視点

(1) つながりを広げよう

武蔵野市では、多様なコミュニティが形成されてきた。それは市民や団体の間の信頼や「縁」によって織りなされている。隣人との縁、家族と家族の縁、学習や活動によって結ばれる縁。こうした結び付きによってこそ、一人ひとりの幸せや安心が実感されるようになる。

隣の人と挨拶を交わそう。地域の集まりのひとつに顔を出してみよう。誰もが自分の居場所として感じられる地域社会を目指そう。市民が互いに閉じ込められず、つながりを広めることは、真の豊かさを手に入れるための第一歩である。

(2) 多様性を力にしよう

武蔵野市は、住宅と商業施設、建物と緑、伝統と若者文化など、それぞれが高い質を有するとともに、質の異なるものが溶け合い、調和するところが大きな魅力となっている。また、市民活動、各種団体、NPOや企業など多様な主体が、それぞれの強みを発揮する地域社会のあり方が模索されている。

年齢や性別における多様性、単身者から子育てファミリー、高齢者までを含む多様性、国籍や文化的な背景の違いによる多様性、職業・ライフスタイル・価値観や市民活動・市民文化における多様性。こうした多様性を活力に変えていこう。

(3) 市民の意識を行動に変えよう

武蔵野市の地域社会に暮らすことに市民は誇りをもっている。地域社会の様々な人たちの活動によってこそ、自分の生活が支えられていることを感じている。

身近な課題の解決に向けて、思いや意識を共有しながら一人ひとりが行動することがあらためて求められている。市民の誰にも市民としての活動の機会や出番がある、そうした地域社会を目指そう。市民としての意識を日常の行動に変えていこう。市民の活動をさらに発展させながら今後10年のまちづくりに活かしていこう。

まちづくりの目標

(1) 自治と連携によるまちづくり

自治体の姿は自治の力によって形作られる。市民、団体、企業など多様な主体がそれぞれの自治をベースに連携しながら地域の力をはぐくむことが求められている。加えて周辺自治体や友好都市等との都市間の連携も、ますます重要性が増していく。

将来にわたり安心して生活することができる地域社会にするため、本市ならではの自治と連携のまちづくりを推進する。

(2) 支え合いをつむぐまちづくり

少子高齢社会が進展し単身世帯が増加する中で、福祉、子育て、教育や防犯・防災などの暮らしの課題に取り組むためには、相互の理解と尊重を基盤としたコミュニティのネットワークが求められている。

地域に暮らす人々が、温かなつながりによって互いに結び付き、誰もが住み慣れた地域でいきいきと暮らし続けられる支え合いをつむぐまちづくりを推進する。

(3) 平和で美しいまちづくり

武蔵野市は良好な住宅地とにぎわいのある商業地、緑豊かな景観、良質な生活文化と芸術文化の蓄積がまちの個性や魅力を形作ってきた。今後も、安らかな毎日を送れる平和な社会を保ちながら本市ならではの市民文化を発展させていくことが求められている。

都市リニューアルや災害に強いまちづくりを進めるとともに、都市文化の表出である美しい街並みの形成などを図っていくことで、平和で美しさを誇れるまちづくりを推進する。

(4) 環境と共生するまちづくり

武蔵野市の特色であるまちの緑を一層充実するとともに、省エネルギーや新エネルギーの活用による地球環境に配慮したライフスタイルを促進することにより、やすらぎとうるおいが感じられる社会を目指していくことが求められている。

きれいな水、身近な緑、多様な生物など、健康で安心して生活できる環境を次の世代に引き継ぐために、環境と共生するまちづくりを推進する